



ユビキタス社会への対応

社団法人 中小企業診断協会 兵庫県支部

支部長 水口可保

最近「ユビキタス」という言葉を見聞することが多くなった。各家電メーカーでも「ユビキタス家電」の開発に取り組んでいる。今後IT化の進展に伴い日常生活や産業界に様々な可能性が予測されている。

説明資料によると「ユビキタス(Ubiquitous)」とはラテン語で「いつでもどこでも存在する」という意味で「時空自在」「普遍的存在」と言い換えられている。実際には「ユビキタス」はブロードバンドで、ワイヤレスで、モバイルな世界を指し、ノートPCやPDAが無くて、いつでも、どこでもインターネットに接続でき多種多様なハードとも情報交換できることを指している。

わが国では総務省が2005年を「ユビキタス発展期」、2010年を「ユビキタス成熟期」として次のような基本コンセプトを定めている

- ① どこでもネットワーク……どこにいても、何でもネットワークにつながり、様々な通信サービスを利用できる。
- ② 何でも端末……パーソナルIDチップや非接触ICカードなど、どのような端末でも自分の端末になり、電子ペーパーや3Dバーチャル端末も利用できる。
- ③ 自在にコンテンツ……好きなコンテンツや様々なサービスを多様な端末間で自在に流通し、利用できる。
- ④ らくらくアクセス……様々なメディアで超高速ネットワークをストレスなく利用できる。
- ⑤ 安心サービス……様々なサービスをリアルタイムで安心して利用できる。

このような基本コンセプトを実現するためユビキタス用の「フレキシブルブロード」、「テレポーション」、「センサーネットワーク」、「エージェント」、「プラットフォーム」、「コンテンツ」、「アプライアンス」等7分野の社会イメージと技術目標を定めている。

この国家プロジェクトでは「新たな産業やビジネス・マーケットの創出」「安心できる社会生活の実現」「障害者等の社会参加の促進」「環境問題への対応」を期待しており、その産業創出額は2005年に30.3兆円、2010年には84.3兆円が予測されている。

主な産業分野で見ると以下のような効果が期待されている。

1. 製造業

- ・SCMの効率化……部品の標準化、管理番号の統一により、グローバルな最適の資材調達が可能になる。
- ・在庫の最適化とQR……部品、仕掛品、製品など全工程の在庫管理がリアルタイムになり在庫の最適化と短納期、多頻度の納品が容易になる。
- ・廃棄物処理……使用済み製品の回収が容易になり、リユース、リサイクルが促進される。

2. 流通業

- ・詳細な商品管理……商品履歴、売れ筋情報により商品ロスを削減できる。
- ・品質保証の充実……タグ利用のトレーサビリティシステム(生産者、農業使用の有無、添加物、賞味期限)によって安全で安心できる商品を提供できる。
- ・ワンツーワンのマーケティング……詳細な消費者ニーズの調査や会員カード機能によって会員サービスを充実できる。

3. 交通・運輸業

- ・ITによるトータルサービス……自動車でETCや道路情報、緊急通報、安全運転支援、放送コンテンツを含むドライバーへの情報提供等のサービスを利用できるようになる。
- ・GPSの活用……車輛の現在位置や運転状況の把握によって定時配送が確実になる。IDチップの利用によって車輛盗難時の位置追跡や廃車処理の確認にも利用できる。
- ・自動車のワイヤレスネットワークの活用……天候や混雑状況の情報収集が進み、リアルタイムの交通情報が利用できるようになる。
- ・e-エアーポート構想……テロに備えて本人認証が高度化され、しかも簡素化、迅速化された通関、搭乗手続が実現する。

4. 医療・福祉分野

- ・遠隔画像診断システムの普及……MRT、CTで撮影した画像をFOMA iモードなどで専門医に送信し、診断を受けるというシステムが普及する。
- ・個人情報で多様なサービス……RFIDを利用して個人の既往歴、処方歴などを記憶させ、ミスのない薬の処方や病気予防、食事療法、ダイエットなどにも役立てる。
- ・介護サービス……位置情報やステータス管理によって、高齢者の安全と健康を見守るサービスも充実する。

5. 旅行業

- ・コンシェルジュサービス……モバイルマルチメディアによって鉄道、バス、タクシー、宿泊施設、観光スポット、飲食店、機関などのサービスを組み合わせることで多角的にサポートするコンシェルジュサービスが実現する。

このような「ユビキタス社会」への進展に伴って多くの分野で新しいビジネスチャンスが生まれており、多くの企業がチャレンジしている。新しいITと新しいニーズをタイムリーに取り上げ企業の経営革新だけでなく今後の飛躍の起爆剤にできる可能性がある。しかし、軌道に乗らないまま撤退するケースもある。

私達中小企業診断士としてはこのようなトレンドを十分認識したうえで「ユビキタス社会への対応」を中小企業の経営戦略に積極的に取り入れたいものである。

中小企業診断協会兵庫支部理論政策更新研修より ― 平成 15 年 8 月 8 日、9 月 12 日

ビジネス事例

わが社の「経営革新」

株式会社フジタ精米人
代表取締役 藤田 覚

わが社の「経営革新」というテーマをいただきましたが、私の中では社名そのものが一番の「経営革新」ではと思っていません。昭和 23 年に私の父である先代が創業しましたので今年で 55 年目に入っている会社ですが、9 年前に社名を変更しました。それまでは「藤田精米精麦株式会社」といういかにも堅そうな社名でした。平成 6 年に本格的な主食米の工場を竣工させ、米総合ビジネスに進化するにあたり、米業界、古い体質の業界ですし何か革新的なプラスアルファを期待いただけるような社名に変更したく考えました。そこでこれからは「人」とか「心」がより企業活動の中心に位置付けられるといい、また「商人」と書いて「あきんど」と読むのと同じ発想で「(株)フジタ精米人」と書いて「フジタセイマインド」と読む社名に決定しました。一度覚えたら忘れられない名前、そんなユニークな社名への変身には成功であったと思います。

新食糧法とともに米業界の新しいトレンド

一口に米業界と言いましても、大きく分けて主食米の業界と原材料米の業界の二つがあります。数年前までは同じ米業界でもまったく違う業界と言ってもいいくらいでした。私共は酒、米焼酎、みりん、味噌等の醸造用やビールの副原料、米菓用、穀粉用等の米を原料にする食品メーカーをユーザーに持つ原材料米のみで企業活動を行ってきておりました。年号が昭和から平成に変わる頃から主食米も精米し始めていましたが、平成 7 年、戦時中から続いてきた食糧管理法から新食糧法に変わるのを見込んで前年に工場を建設し、本格的に主食米も力を入れるようになりました。

米は日本人の主食であって、数少ない自給可能な穀物である為、過去「規制」と「緩和」のバランスの中でどんどん制度も変わってきました。そのために制度が変わる直前には必ず時代を先取りした「ニッチな流通」が生まれ、「新たな市場」に育ち、「制度も後追い」してきた過去の実例があります。今年度 15 年産米もデフレの中での不作で、それまでの単一産地、単一銘柄で作るいわゆる「ブランド米」から複数の原料米を組み合わせる「ブレンド米」への移行に加速するターニングポイントの年になると確信しています。コストを抑えブレンドの相性により良食味を追求する、本当の意味での米を加工する「メーカー」としての役割が試される年になると思われます。

それ以外にもここ数年、新形質米という新しい用途に特化する銘柄がどんどん研究されたり、無洗米という付加価値の付いた状態での便利な米が普及しつつあります。また、米粉パンの出現により小麦粉世界への用途拡大が広がり、米業界の新しいトレンドがどんどん出現しつつありますが、わが社はその動きを見逃さず一歩先んじて取り組みをしております。

変化をチャンスに変換する体制づくり

米と人との間のいろいろ新しい提案が出来ることこそが私共の目指している「米のファンタジスタ企業」であり、その企画力こそが私共の企業の生命線であろうと自覚しています。時代はどんどん変化し、ユーザーからの要望はより細かいものになっていきます。それだけに変化をチャンスに変換していく体制づくりが重要で、そのことが企業の「経営革新」であろうと思います。

そのために私共の企業の強みを前面に出す企業戦略を徹底していきたいと考えています。米業界における私共の強みは、①産地に立地しているため「米の川上」でいろいろな取り組みが可能な事、②主食米と原材料米を扱っている為にいろいろな原料の米が相互補完できること、③生産ラインを手作りで組換え可能で差別化を図り、付加価値を生みやすいこと等であろうと考えます。米不足の今秋こそ特にその強みを生かし、飛躍のきっかけにしたいと今いろいろな「仕掛け」を行っているところです。

そして小さくても存在感のある企業として次のことを全社員に伝え、意識付けさせています。① トップの人間の魅力を磨く。② いつでも明るく元気に仕事を「楽しむ」社風作りの為に社員一人一人に企業理念を徹底させています。③ 先んじたひと工夫をして、大きさよりも引き出しの多さや間仕切りの便利さに差別化を集中させています。それを具体化し、徹底させるひとつの手段として昨年秋に ISO 9001 (2000) を業界の中では先駆けて取得しました。

企業の強みと社風をトップから正社員、パートまでの全社員が同じように身につけ、それを企業活動として行動し表現できること、それこそが今のこの厳しい時代を生き抜いていける唯一の方法ではないかと考え今後も努力していく覚悟であります。

ビジネス事例

平成 13 年度中小企業経営革新事業費補助事業事例発表

射出成形機用新形コントローラーの 開発試作および商品化事業について

株式会社フジ・データ・システム
取締役産業システム部部长
神崎 将見

弊社は保有するコンピューター・ハードウェア・テクノロジーおよびソフトウェア・テクノロジーを駆使して様々なシステムの開発生産を行っておりますが、今回は平成 13 年度に取り組みました経営革新補助事業における事例として、射出成形機用の新形コントローラー開発試作とその商品化事業について述べさせていただきます。

射出成形機はひと口に言えば溶融したプラスチック材料を金型に向けて大きな圧力で射出し、成形部品を作り出す装置ですが、温度管理や型締め制御が複雑で、安定した品質を得るための様々なノウハウが注ぎ込まれています。加えて生産性を上げるためには高速動作が必要になり、これらを総合的に制御する中枢の役割を果たすのがコントローラーの役目ということになります。

現在の中国は世界のモノづくりの中心的存在になりつつあると言われていますが、そんななかでプラスチック成形部品は欠かせない材料として需要が飛躍的に拡大しています。それに伴って射出成形機の出荷台数も大きく伸びている状況にあります。当社は過去 17 年間に渡り海外向け射出成形機用のコントローラーに取り組んで参りました経験を活かし、最近の海外市場の需要拡大に対して高性能な新形コントローラーを開発し商品化することにより、新たな顧客開拓を目指しています。

平成 13 年度経営革新事業費補助事業の認定を得、開発試作を進め商談の具体化につながった経過を発表会で説明しましたが、整理するといくつかの要点に集約されます。

- (1) 弊社の射出成形機コントローラー・ビジネスが、顧客価格低減要求激化と危機的利益低下に追い込まれたこと。
- (2) 射出成形機コントローラー・ビジネス再評価の結果、弊社にとってコア・ビジネスになり得るとの確信を得たこと。
- (3) 1 社依存体質からの脱却と、企画提案形ビジネス・モデルへの営業政策転換。
- (4) 試作モデルでの具体的プレゼンテーションを通じた顧客要望調査と事業計画立案。
- (5) 海外ビジネスにおける販売能力・リスク対応能力補完のための商社タイアップ作戦。
- (6) 商談具体化に伴う開発費負担の考え方を転換。
- (7) 平成 13 年度経営革新事業費補助事業の承認を得たこと。
- (8) 予定スケジュールにて商品化試作を完了し、商談への結び付けに成功。
- (9) 技術的ノウハウの保全と顧客要望への対応。

まだまだ課題は山積していますが、これからは下記のような展望を持っています。

- (1) 近い将来の海外市場射出成形機方式転換ニーズに応える対応技術の確立。
- (2) 更なる顧客への企画提案形営業と新規顧客の開拓。

これらを通じて、引き続き経営革新を図って参ります。



委員会だより

会員研修委員会

皆さん今日は。日頃は、会員研修委員会の活動に、ご協力とご支援を頂き、一同感謝いたしております。

さて、当委員会の役割と活動内容につきましては、多くの方々が既にご承知のことではありますが、新たに入会された方もおられることから、この機会に整理しておきます。

当委員会はその名の通り、会員に役立つ研修を企画し、提供する事が最大の役割です。

具体的には各月の「自主研究会」と年2回の「研修旅行」の主催が中心ですが、協会本部から受託の「支部研修会」や「実務能力研修会」のお世話も引き受けています。

目まぐるしく変化する経営環境に合わせ、最新・最適の知識と情報を、的確な講師選定で、面白くて判り易く、かつコンサルテイング現場で役立つものにするため、企画に力を入れています。

メンバーは小川副支部長をはじめとする11名ですが、中には他の委員会のメンバーを兼ねている人もいて、活動的な人が多いのが特徴です。その活動ぶりの現われか、各々のメンバーが責任者を務める勉強会も、「助言技法研究会」「経営法務研究会」「コンサル技法研究会」「診断技術向上研究会」「企業内診断士の会」と数多くあります。

中でも「企業内診断士の会」は、他の支部では例を見ないユニークな勉強会で、非会員を含む13名の企業内診断士が、切磋琢磨に励む会です。

9月に発足したばかりで、将来の方向性や具体的な成果はまだ現れてはいませんが、今後の活動を注目して見守りたい勉強会です。

当委員会の活動内容をより良いものにするため、皆様方からの建設的なご意見、ご要望をお寄せ頂きたいと思っています。よろしく願い申し上げます。

(吉住尚史)

診断技術向上委員会

診断技術向上研究会は平成10年からスタートした勉強会で兵庫県支部では、自主研究会に次いで2番目に歴史のある研究会です。当初は20名近くのメンバーがいましたが、現在は一步先をみた情報活用をめざす気のある仲間(現在10名)でわきあいあいとやっています。

毎年メインテーマを決めてメンバー相互に講師を行い、自己啓発に励んでいます。本年は「EXCELを活用したデータマイニング」同友館発行の企業診断2000年1月から連載で掲載されましたデータマイニング入門講座を持ち回りで研究しています。



先月(9月17日)はPOSデータのバスケット分析とコンジョイント分析を活用したアンケート分析を行いました。(写真参照)

先日も小川副支部長が飛び入り参加をしてくださいましたが、メンバーはいつでも募集していますので、お気軽にご連絡(支部会員 大森(kohmori@act-con.jp)までご連絡ください。

また、研究会で活用しています題材はhttp://www.act-con.jp/shindan_tec.htmにアップされていますのでご興味のある方はこちらもどうぞ。

(大森 啓司)


委員会だより
プロジェクト開発委員会

第2回及び第3回 ひょうご元気企業交流会

(社)中小企業診断協会 兵庫県支部プロジェクト開発委員会が主宰するオンリーワン総研では、兵庫県下から勇気と知恵を出す元気な企業が益々、増えることを目標として、“ひょうご元気企業交流会”を発足させ、その発足を、平成15年6月11日に開催し盛会裏に終わりました。

その続編として、第2回及び第3回を兵庫県中小企業団体中央会との共催で以下のとおり開催します。

第2回 平成15年10月31日(金)「我社の顧客満足度の点検」
 第3回 平成15年11月21日(金)「顧客満足プロジェクトの立案」
 会場：神戸市産業振興センター (神戸市中央区東川崎町1-8-4)

今回の交流会の特徴

- ① 元気企業の顧客満足事例と売上増進策を講義から修得する。
- ② 事例をヒントに我社の顧客満足度を点検し、顧客満足プロジェクトを立案する。
- ③ 顧客満足プロジェクト立案づくりに中小企業診断士が個別助言・支援を行う。

< 第2回交流会 10月31日 >

「我社の顧客満足度の点検」 14:00 ~ 17:00

- (1) オリエンテーション
- (2) 講義「元気企業の売上増進策
—— 売手に理屈はいらない、顧客満足活動の事例 ——」
- (3) パズ・セッション「事例のヒントと我社の顧客満足度の点検」
- (4) まとめ講義

< 第3回交流会 11月21日 >

「顧客満足プロジェクトの立案」 14:00 ~ 17:00

- (1) オリエンテーション
- (2) 講義「顧客満足の経営」
- (3) 演習結果の発表「我社の顧客満足プロジェクト」
- (4) まとめ講義

< 懇親会 >

- ★ 講師陣：甲南大学 経営学部教授：西村 順二氏
 中小企業診断士：井上 雅晴、福島 繁、森 博人、平井 清美、奥村 隆生 各氏 他
 参加費：お一人、一回3千円(定員：40名)
 問合せ先：(社)中小企業診断協会兵庫県支部
 T E L : 078-361-8034 FAX : 078-361-8722



自主研究会抄録

7月度研究会

テーマ：「診断士が知っておくべき特許流通情報」

講師:元 大阪府特許流通センター勤務 法学修士 小南 典子氏
 日時:平成15年7月7日(月)18:00～20:00 場所:神戸市産業振興センター902号室

経営戦略をクライアントと共に相談にのるのは診断士の職務であるが、その中に知的財産戦略を加味したアドバイスをしているだろうか？

今回の研修は、知的財産が重要視される中で企業のイノベーションを図るための重要な道具としての「特許」をどのように有効活用していくかを示唆していただきました。具体的な内容としては、① 道具としての知的財産権としてみた場合の「技術力を誇示する企業としての強みの強化戦略」「商品の付加価値向上や市場占有力を高めるツール」として活用方法、② 具体的な「知的財産(無体・無形物・無名契約)」と「知的財産権」の紹介、知的財産戦略としての制度の活用方法、経営戦略の根幹としての具体的な知的財産戦略、そして最後に ③ 特許流通を活用したイノベーション(例えば使い終わった技術をリニューアルするなど)の事例紹介を受けた。

我々「特許」と聞くと弁理士にと思いがちであるが、戦略を考える場合には法律の視点から見直すことの重要性を認識する研修会で非常に有意義であった。(大森啓司)

9月度研究会

テーマ：『診断士の使いたいBSC(バランススコアカード)』

講師:兵庫県支部会員 松浦 敏貴氏
 日時:平成15年9月1日(月)18:00～20:00 場所:神戸市産業振興センター902号室



1980年代にアメリカで行われた経営コンサルタントへの調査で「有効に策定された戦略で10%以下しか成功しなかった」という結果が出た。多くの経営者も「正しい戦略を策定すれば、それでビジネスでの成功に必要なことのすべてをなしえた」と考える誤りを犯している。

バランススコアカードは「戦略の実行はすぐれたビジョンより重要である」ことを前提に、分かりやすく日々の業務に落とし込むことや継続的なプロセスを作るために「財務」、「顧客」、「内部プロセス」、「学習と成長」の4つの視点から戦略を描き、目標に向かって組織が機能しているかどうかチェックできるように考案された手法である。

大企業だけでなく中小企業においても活用できる事例を紹介。またコンサルタント業を営む診断士として自らのバランススコアカードを描き戦略的な活動を行うために今後も事例を積み重ねて商品化して行きたい。

経営のヒント

“ 危機管理の必要性 ”

副支部長 井上 雅晴

最近の新聞紙上で、一流大企業の工場災害のニュースが毎日といっていいほど出ている。新日鉄・名古屋の爆発事故、プリジストンのタイヤ工場の火災。最近では出光興産の十勝沖地震の製油所タンクの火災などが挙げられる。天災、人災を問わず、企業には大きな損失である。最近の工場災害には人災といわれるものも多々ある。

その原因には

- ① 景気低迷下、リストラにより設備管理費の削減 ② 老朽化した設備による無理な操業 ③ 常勤職員の減少、パート、社外社員による作業等の影響が出ているのではないかとされる。

工場災害を防止する方策について、次のことが挙げられる。

- (1) ダメージ・コントロール...不測の事態でダメージを受けたときの仕方を設計しておくこと。
 (2) リスク・マネジメント...いわゆる危機管理で、予防から対処までのプロセスを管理しておくこと。
 (3) トラブル・シューティング...事件・事故の発生をあらかじめ予想し、問題箇所を突き止めて解決すること。

中小企業でも、危機管理を全社的に実施することが、今、あらためて求められています。

平成15年度下期(11月以降)の各研究会スケジュール

● 自主研究会 (責任者: 吉住 尚史)

問合せ先: 兵庫県支部 078 (361) 8034

日時	場所	テーマ	講師
11月14日(金) ~15日(土)		福井県視察旅行(三方五湖他1泊2日) ~ 若狭地方の元気企業と三方町観光事業の視察 ~	
12月1日(月) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 902号室	特定調整について	弁護士 橋本 真爾氏
1月13日(月) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 902号室	金融機関の中小企業格付け視点とは	兵庫県支部会員 竹末 文昭氏
2月2日(月) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター	日本一のIT商工会議所を目指す	豊中商工会議所理事事務局長 小早川氏
3月6日(土)		日帰り研修旅行(行き先未定)	

● 助言技法研究会 (責任者: 大場 一正)

日時	場所	テーマ	講師
12月8日(月) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 804号室	業務改善とコーチング	大阪支部会員 中上 義春氏
2月9日(月) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター	未定(コーチングに関して)	兵庫県支部会員 大西 一達氏

● 経営法務研究会 (責任者: 大西 一達)

日時	場所	テーマ	講師
12月11日(木) 19:00~20:30	生活創造センター(神戸クリスタルタワー) 5階 A	新事業創出促進法	兵庫県支部会員 石川 淳二氏
1月28日(水) 19:00~20:30	生活創造センター (神戸クリスタルタワー)	労働関連法規	兵庫県支部会員 大場、畑薫両氏
2月17日(火) 19:00~20:30	生活創造センター (神戸クリスタルタワー)	環境関連法規	兵庫県支部会員 田淵 方美氏
3月16日(火) 19:00~20:30	生活創造センター (神戸クリスタルタワー)	中小企業の会計	兵庫県支部会員 大西 一達氏

● コンサル技法研究会 (責任者: 吉住 尚史)

日時	場所	テーマ	講師
11月21日(金) 18:00~20:00	生活創造センター(神戸クリスタルタワー) 6階 D	成果型賃金の構築ポイント	兵庫県支部会員 大場 一正氏
1月23日(金) 18:00~20:00	生活創造センター (神戸クリスタルタワー)	新しい流通事例	兵庫県支部会員 奥野 雅之氏
2月20日(金) 18:00~20:00	生活創造センター (神戸クリスタルタワー)	勝つための営業戦略	兵庫県支部会員 森 博人氏
3月19日(金) 18:00~20:00	生活創造センター (神戸クリスタルタワー)	今はやりの販売促進事例	兵庫県支部会員 小川 勝夫氏

● 診断技術向上研究会 (責任者: 大森 啓司)

日時	場所	テーマ	講師
11月19日(水) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 804号室	Excelを利用したデータマイニング(4)	兵庫県支部会員 明石氏、大森氏
12月17日(水) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 804号室	Excelを利用したデータマイニング(5)	兵庫県支部会員 松浦氏、永久氏
1月21日(水) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 804号室	中小企業診断士にとってのマイニング	外部講師

● 企業内診断士活性化研究会 (責任者: 大場 一正)

日時	場所	テーマ	講師
11月19日(水) 19:00~21:00	生活創造センター(神戸クリスタルタワー) 4階 B	第3回打合わせ	
12月20日(土) 13:00~17:00	生活創造センター(神戸クリスタルタワー) 5階 B	第4回打合わせ	



支部だより

前回の支部だよりでもご連絡をしましたように、兵庫県支部主催の更新研修が前期(8月8・9日)と後期(9月12・13日)の2回に分けて開催されました。

前期・後期共に非常に多くの方が研修を受けられました。(理論政策 前期227名、後期100名、合計327名) また、理論政策だけではなく実務能力研修も引き続き実施され、こちらも前期68名、後期45名の方が参加されました。実務研修では白熱の論議が交じわれ、非常に密度の濃い研修となりました。

最後になりましたが、理論政策では株式会社フジタ精米人の藤田覚様、株式会社フジデータ・システムの神崎将見様の2名様から貴重な事例紹介のお話を頂きました。この場を借りて、あらためて御礼を申し上げます。

なお、来年に更新を予定されている方は申請忘れのないように注意しましょう!(実は、筆者も来年なのです)

(総務委員会)

総務委員会の紹介

支部会員の多くの方が、平成15年度の「中小企業診断士更新研修」を神戸市産業振興センターで受講されたことと思います。その際、事務局長の林さん、事務の西口さんを中心に受付をしておりましたが、そこには、その他何人かがいたことはお分かりいただけたかもしれません。それから研修の進行役である司会者としてもおりました。

このメンバーが総務委員会の面々です。よろしくお願ひします。総務担当副支部長である高島副支部長をはじめ8名の総務委員があり、月1回ほどのペースで委員会を開いています。

どこの企業にも総務グループはあるものですね。(人数はごくわずかで、名称もいろいろかもしれません)組織を機能させるためには重要なグループだと自負しております。しかし、「やっていること」からいえば「裏方的な仕事が多い」です。ということで、わが中小企業診断協会兵庫県支部が順調にその機能を果たせるようにするために裏方としてがんばっていきます。

具体的にその業務をあげてみますと以下のとおりです。

- ① 支部会員の為の諸手続き、事務処理、等
- ② 支部運営に関する規定類(支部規約等)・会員名簿の維持管理
- ③ 総会、理事会、常任理事会、の開催、準備
- ④ 診断士更新研修実施のため、実行委員会の指示に基づき支援
- ⑤ 渉外業務
- ⑥ 支部事務局との協力で協会活動の推進(上記の活動以外)

住所等の登録事項変更・慶弔見舞金について

事務局へご一報を——— 所定の用紙を送付致します。

1. 登録等事項変更があったとき

- ① 氏名
- ② 自宅住所(含む電話)
- ③ 勤務先名
- ④ 勤務先所在地(含む電話)
- ⑤ 所属支部

2. お祝いごと等があったとき

- ① 結婚
- ② 受章・叙勲
- ③ 1ヶ月以上の病氣療養
- ④ 被災(火災・水害など)
- ⑤ 死亡(本人・配偶者・子・父母)

編集後記

昨9月の商工中金による景況判断指数は49.4と発表されました。景況が好転したとする企業と悪化していると考えている企業の割合がようやく半々に近づいたということですが、まだまだ景気底入れの実感はわからないというのが多くの中小企業経営者の思いではないでしょうか。急速な円高の進行が景気の回復を腰折れさせなければよいがとハラハラさせられるこのごろです。本63号では、このような時期、元気に活躍されている「株式会社フジタ精米人」殿と「株式会社フジデータ・システム」殿に寄稿していただきました。「経営革新」を通じて発展を続けられる両社のような企業が続々と出現して兵庫県の経済が活性化されることが切望されます。

広報委員会では、副委員長の上住好章理事が今月東京に転勤されました。上住さんは明晰な頭脳で、広報委員会だけではなく支部にとっても大きな貢献を果たされました。私たちにとって大きな痛手ですが、委員長を中心に広報委員会の本分を尽くさなければと思っています。上住さん有難う御座いました。ますますのご活躍をお祈りいたします。いつかお帰りになるのをお待ちしております。

(広報委員 上村隆夫)